平成３０年度　〔　特別支援教育研究構想図　〕　恵那市立恵那西中学校

〈全校研究主題〉

生き生きと学び続ける生徒の育成

～主体的・対話的に学びながら，一人一人が課題解決できる授業づくりを通して～

〈特別支援学級の生徒の実態〉

○自分の興味があることや得意なことを生かすことのできる学習においては，積極的に取り組むことができる。

○知的学級の生徒の多くは，自分が知っていることを伝えたり，仲間に教えたりすることができる。

●見通しがもてないと，学習の意欲が低下してしまう。

●基礎的・基本的な知識や技能の定着に偏りがあり，苦手意識をもっている生徒も少なくない。

●対人関係に不安を感じており，仲間とうまく関わることができないことがある。

＜授業で生み出したい姿＞

〈主体的・対話的な姿〉

＊個の実態に応じた基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けようとしている姿。

＊実生活の課題に対し，見通しをもって活動する姿。

〈課題解決できる姿（深い学び）〉

＊身に付けたことを生かして活動する姿。

＊「わかった」「できた」を自分なりに表現する姿。

＊学習したことが生かせる生活場面を理解している姿。

〈特別支援教育研究主題〉

実生活に繋がる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，活用することができる生徒の育成

〈研究主題設定の理由〉

昨年度の研究では，単元の学習の中で「習得の時間」と「活用の時間」を分け，繋がりのある単元構成を工夫することで，毎時間の学習や活動に意義を感じ，意欲を持続して学習に取り組むことができた。また，一人一人の実態が大きく異なる特別支援学級において，それぞれの実態に合わせた目標を設定し，目標を達成するための具体的な手立てを用意したことによって，生徒一人一人がそれぞれに合った基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができた。

一方で，他教科との連携や身に付けた能力を実生活に繋げる活動に生かすことに課題が残った。生徒の実態に合わせた題材設定と単元構成をより深く考える必要がある。また，「わかった」「できた」という実感や体験を振り返り積み上げていくことで，見通しをもって課題を解決し，実生活の中でも生かすことができるようにしたい。

そこで，特別支援教育における「授業で生み出したい姿」は，実生活の課題をもとに主体的・対話的な学びを通して，個の実態に応じた基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，活用する姿とした。

＜研究内容１＞

「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫

・個別の教育支援計画を基に，単元で身に付けたい能力を明確することで，一人一人に必要な能力を確実に身に付けることができる単元構成を工夫する。

・単元の中で身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能を活用して生活習慣上の課題を解決できる単元の出口の活動を工夫する。

＜研究内容２＞

一人一人が課題解決できる手立ての工夫

①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫

・板書や掲示物を使った振り返り活動により課題を焦点化し，見通しをもって学習に取り組むことができる導入方法を工夫する。

・ホワイトボードや構造的な板書により，導入での考えや単元の出口に必要な知識及び技能がわかるようにする。

②学びの状況を実感できる授業終末の工夫

・一人一人の実態に合わせた評価項目を設定する。

・自己評価による定着の見届けを行い，「できた」実感や「生活に生かすことができる」喜びがもてるようにする。

研究の基盤（確かな学級経営と教科横断の共通指導，PDCA サイクルを意図した指導）

①互いに認め，高め合える学級集団の育成　②生徒の自治的な活動の推進　③基礎・基本の定着